



藤棚
52号

世田谷区深沢 4-10-1
東京学芸大附属世田谷小学校内
青山附属同窓会
<https://aoyama-dosokai.jp>

発行人 森 昭彦
編集人 斉藤研一

青山荘からちくらつなぐホテルへ

一九八八年(昭和六十三年)卒 二組 金子岳人

改めて藤棚への寄稿の機会をいただきました。ありがとうございます。

ながらも、八月末に何とか開業に辿り着きました。

うございました。卒業生として、私の会社で引き取らせていただいたから一年数カ月の期間を経て、附小卒業生として思い出に残る青山荘は、昨年夏に、ちくらつなぐホテルとして生まれ変わり、開業いたしました。

私は昭和六十三年の卒業生となりますが、その時の担任が藤田留三丸先生でした。藤田先生もこの青山荘を何とか残したいと考えておられたお一人でしたので、生まれ変わった青山荘をどうしても最初に

既存の建物を残し再生させることにこだわりやってきましたが、想像以上にコンパージョンへの負荷は大きかったと思います。想定以上の労力、時間、コストを要し、相当な耐震補強を施し、大幅に遅れ



藤田先生と

見ていただきたいと思っていました。プレオープンの日に合わせて先生を車でお迎えにあがり、千倉まで一緒にできたことは、忘れられない楽しい時間でした。

しかし、その後今日までのちくらつなぐホテルは試練の連続となります。

開業から一〇日も経たないうちに複数の猛烈な台風が襲われ、房総半島は各地が被災、ホテルもまた被災しました。風速二〇メートル以上の風に植栽や広い庭に作った複数の大型テントを囲うデッキ壁が倒壊。一方、改修工事が完工していたことで、建物に大きな被害が出なかったことは不幸中の幸いでした。ただ、現地では電波も電気もつながらず、これは大変なことに

なったと思います。それでもフリーズしている暇はなく、できることを考え矢継ぎ早に行動に移しました。ホテルの機能は失われていなかったことと、当地域で断水にまでは至らなかったため、東京から物資を運び、炊き出しや新設した大浴場の開放に踏み切りました。今でも復旧したとは言えないのかもしれないませんが、ホテルとして開業して、最初に地域とつながれた瞬間だったと思います。



昭和23年卒の皆さんと

予想はしていましたが、その後もなかなかホテル稼働が軌道に乗ることはなく、その間、大浴場は公衆浴場の登録を行うことで日帰りの利用も可能とし、法人のオフサイトミーティング向けの準備も進めてきました。そして、春以降の需要獲得に動き出した矢先に、今度は新型コロナウイルスの蔓延となります。当社では、葉山の運営施設とともに五月末にかけて休業に踏み切っておりましたが、緊急事態宣言の解除に伴い、ようやく再開しました。何度となく荒波に揉まれてはおりますし、当初思い描いていた事業計画などはとっくに瓦解しているのですが、卒業式の呼びかけの言葉を借りれば、

同級生と



それでも附小の卒業生は一步步つ前に進むのですよね。

正直申し上げて、収益のことは本当に大変なのですが、青山荘を引き取ったことは全く後悔していません。卒業から三〇年以上を経て、私も二児の父親となりました。再生した青山荘に子供たちを連れて行き、彼らと一緒に遊んで笑顔になれたこと、これこそ私が実現しなかった形でした。現地には何度も足を運んできましたが、最後の管理人であった奥田さんたちが、青山荘の閉鎖から子供たちの笑い

声が聞けなくなってしまうことを大変残念がっていました。

ちくらつなぐホテルという名称には、世代をつなぐ、人と地域をつなぐという想いが込められています。青山荘の再生計画は、世代を超えて親子が集い、千倉町に子供たちの笑い声呼び戻すことをミッションとして始めました。

卒業生の皆さまにおかれましては、母校の小学校はもとより、もう一つ皆さまの帰れる場所ができたと思っただけ嬉しく思います。今まで接点を持てなかった先輩や後輩とも少しずつつながりが持てるようになり、これは本当に自分の財産になると感じています。

まだまだ多くの方々にお会いできたらと思っています。もちろん、ホテルとして運営するからには宿泊料などいただくことになりましたが、気軽に使っていただきたい思いから、附小関係者向けの優待として、常に25%割引となる設

「ちくらつなぐホテル」特別優遇のご案内



優遇付与対象の方

- ・東京学芸大学附属世田谷小学校のOB・OGの方（教職員の方を含む）
- ・在校生及び在校生の親御様、教職員の方

優遇内容

ちくらつなぐホテルの宿泊料 25%割引

ご使用方法

公式HPからのWEB予約限定の優遇となります。

宿泊予約画面の「キャンペーン」から、以下のIDとパスワードを使って予約します。

ちくらつなぐホテル ホームページ：<https://chikura.tsunaguhotel.jp/>

ID : seizansou1974

パスワード：1974seizansou

一般の予約方法とは異なりますので、詳しくは、

[青山附属同窓会のホームページ](#) > [ブログ](#) > 「ちくらつなぐホテル」の利用について
をご覧ください。

青山附属同窓会ホームページ
<https://aoyama-dosokai.jp/>

ちくらつなぐホテル
Tel : 0470-29-7370
E-mail : contact@chikura.tsunaguhotel.jp

フラットと立ち寄っていただき、ランチを召し上がっていただくこともできますし、ホテルの中の見学だけでも大歓迎です。お待ちしております！

定にしています。まだご存じない方も多いかと思いますが、少しでも多くの方にあの青山荘のその後を見に来ていただきたいと考えていますし、プチ同窓会なども実現できたら

と考えています。四月からは新卒も入り、笑顔でホテルを盛り上げてくれています。私は常にホテルにいるわけではありませんが、機会があればぜひ千倉でお会

いしましょう。末筆ながら、このような時期でもありますので、皆さまどうかご自愛ください。
(株式会社ブルー・スカイ・アソシエイツ 代表取締役)

コロナ、同窓会、同窓生名簿

幹事長 森 昭彦

コロナウイルス下、皆様いかがお過ごしでしょうか。この

ような方々には厚く御礼申し上げます。

のウイルスによる被害は人の健康のみならず命を奪い、心をも傷つけ、社会生活、経済に大きなダメージをもたらしています。一九六六年卒の同窓生である岡江久美子さんをはじめ、亡くなられた方に心より哀悼の意をささげます。ほかにも同窓生の方でこのウイルスの犠牲になられた方がおられるのではないかと気になる場所です。また感染されて入院を余儀なくされた方々もおられると思います。その方々には心よりお見舞い申し上げます。一日も早い平癒をお祈りいたします。

中学、高校、大学に学ばれる同窓生の方々も、学校、大学が閉ざされ、一部オンラインでの授業可能な学校を除き、多くの学校で授業を受けられず、知識獲得のうえで大変な被害を受けています。多くの新入生にあつては当初から学校に行けず、新しい学生生活がどんなものなのか不安な時間を過ごされたことと思います。別稿で副校長の越後先生が詳しく書かれておられますが、附小にも大きな影響が出ていることは皆様ご推察の通りだと思います。

同窓会活動もコロナの影響で、四月、五月の常任幹事会を開くことができず、六月に予定されていましたが、幹事会表にお集まりいただきたく幹事会も取りやめとせざるを得なくなりました。

会則では、決算予算は幹事会の承認を要するとなっておりますが、やむを得ない場合は、幹事会の議を経ることなく常任幹事会の決定により予算の執行ができるようになっており、次回の幹事会に報告了承を得ることとなっております。今回につきましてはこの条項を適用し、幹事の皆様にはご了解いただきたくお願いいたします。なお、二〇一九年度の決算報告につきましては、会計監事の承認を得たものを会報「藤棚」に掲載いたしました。



本年四月現在で、同窓生の数は一万一六〇名、そのうち住所が登録されている方は七三二一名となっております。この方々には毎年同窓会報をお送りしていますが、転居などにより宛先不明での返送が毎回一六〇通前後になります。これは会員の70%の方には同窓会報が確実に届いていることとなります。誇るべき会員把握率とおもっています。

返送された方については、メールアドレスが登録されている方にはメールで問い合わせ、ご自宅や連絡先の電話番号が登録されている方にはそれぞれに電話をかけて、新しい住所を確認しています。ところが、なかなかつながりにくいことに加え、最近には詐欺電話などが多く、また社会が個人情報にセンシティブになってきているため、同窓会からとお伝えしても警戒される方もあり、親御さんにつながっても同窓生の新住所を教えていただくことが困難になっております。郵便物を親御さん宛にお送りし、親御さんからお子



同窓会の皆様、いつも附属小学校をあたたく見まもりご支援をいただき、ありがとうございます。

開校から百四十五年目の春を迎えました。

昨年度もまた、九月八日の台風15号により、プールわきの杉がプールのフェンスを破り、どんぐり山のサクラはどんぐり山の遊具に直撃し、大きな被害が出ました。

また、新型コロナウイルス



感染症の感染防止のために、二月二十八日(金)には、いきなり年度最終日を迎え、三月二日(月)からは臨時休校日となり、五月末まで休校となっていました。

その間に、台風で壊れたどんぐり山の遊具の修復が終わり、プールから体育館にかけてのブロック塀がきれいな白いフェンスに生まれかわりました。

昨年度から指定を受け取り

組んでいる文部科学省の「研究開発学校」では、昨年度は「教科の本質とは何か」を追究し、今年度はいよいよ「じぶんdeラボ」「みんなdeラボ」のラボ活動に取り組み始めます。臨時休校期間が長期化する中で、テーマをもって、自分で追究する「学びを自分でデザインする子」の育成という本校の研究は、今後ますます注目されてくるのではないかと感じています。

【学校長が代わりました】

この三月、平成二十六年より六年間本校の校長を務められた松浦執先生が、大学に戻られました。四月一日から新校長として大井田義彰先生をお迎えしました。

松浦先生は理科教育学がご専門で、ICTを活用した授業でも先進的な取り組みを多くされました。みんなの広場や卒業の会、入学の会でのヒューマンノイドロボットNAO校長先生との掛け合い話は子どもたちの大人気でした。毎回、子どもたちは校長先生のお話をたのしみにしていました。多様な経験をもとにし

た広い視野に立った将来を見据えた教育観は、子どもたちや教職員に大きな影響を与えて下さいました。今後の更なるご活躍をお祈りしています。

新校長の大井田先生は、昨年まで東京学芸大学人文社会科学系長としてご活躍され、ご専門は近代日本文学です。実は、平成二十一年度から平成二十三年度の三年間、本校の校長を務められ、二度目のご就任となります。サッカーも大好きなスポーツマンでもあります。附属小学校に新たな風を吹き込んでくださることを思います。

【先生の異動】

☆お送りした先生

▽福田 淳佑先生

平成十七年に本校に赴任され、途中平成二十六年より平成二十八年年度の人事交流で小金井小学校に三年間異動された後、また本校に戻られての在職でした。十二年間本校に在職されました。

誠実なお人柄で、先生の発する一言一言に重みを感じました。国語をご専門とされ、二年生の実践では「せたがや

むら」という架空の村づくりを通して、詩に触れたり、友達と何かをつくっていくことの楽しさを感じたりすることをねらいとする活動を行いました。新しいことに積極的に取り組み、何より子どもたちの学びを大切にしておられました。文教大学附属小学校での今後のご活躍をお祈りいたします。

▽西川 義浩先生

平成二十五年に本校に赴任され、七年間在職されました。

落語がお好きだと言われるだけあって、お話がとても上手で思わず引き込まれてしまいました。担任されていた学級の学級テーマで大道芸について取り組まれ、子どもと一緒に楽しんでおられた姿が印象的でした。国語をご専門とされ、「読むこと」を重点とし、何を考えるかを自らデザインする問題解決的な授業づくりを目指し、研究を進めておられました。また、生活実践部では、宿泊活動を通してどのような学びを積み上げていけばよいのかを学校の中心になってまとめてくださいました。

今後の東京都での活躍をお祈りいたします。

人生のスタートライン

元教諭 武田 道子

「藤棚」が届いたのかと思いきや、開封しましたら、なんと本稿への寄稿依頼でした。

附小を巣立って四十数年。思えば学芸大学を卒業して、社会人としての第一歩を踏み出したのが附小でした。五十二年間の教員生活が、ここからスタートしました。大学教員の方が長く、附小の在職は十二年間でしたが、常に私の研究の基盤が附属にありました。

赴任して九年間は、音楽専科でした。専科では、入れ替わり違う学年やクラスの子供達から、発達と成長の過程を学ばせてもらいました。それを全て記録に残しました。



さて、在職中の思い出を辿ってみますと、赴任してすぐ立派な児童館が建ちました。数々の音楽会や学芸会、そして式典が体育館から移行し、児童館に続く通路は心を揺さぶる道でした。音楽会では、かなり高度な曲を選曲し、

残り三年間は、低学年のクラス担任でした。ここで「乳・幼児期の音楽的能力」への私の研究テーマが生まれました。また、○の時間のテーマに据えたオペレッタ作りは、大学生のミュージカル制作に結び、現在でも常葉大学の学生に受け継がれています。

附属に在職したことで、研究への姿勢を先輩や後輩からたくさん学ぶことが出来ました。その意味で、新卒の私にとって附属は、まさに人生のスタートラインでした。これは、この附小を巣立っていった卒業生と同じ気持ちではないでしょうか。

しかも綺麗なハーモニーを求めて、一人ずつの進度カードに、出来たところは押印を、出来ない箇所はお休みというような多少厳しい練習を課したことを思い出します。それでも全員が到達した時の喜びは大きく、子供達の力を信じた私も大満足でした。

その年に、附小の校歌と同じ作詞家・作曲家によって「藤棚のうた」が出来ました。美しいメロディと附属の子供達が藤棚に集う様子を歌った歌に心を打たれ、ピアノ伴奏もその曲想を表現出来るように何回も練習しました。

時を同じくして、創立九十年を迎え、昭和天皇・皇后陛下の御臨席を仰ぎ、式典が催されました。皇后様の柔らかなほほ笑みは、今でも鮮明に記憶しております。

そして、臨海学校・林間学校の千倉と燕岳には、ほぼ毎年のように同行しました。早朝の燕登山は若かったから出来たのだと七十七才の現在、実感しています。

昭和五十一年三月の創立百周年には、上皇・上皇后両陛下

▽面川 恰花先生

平成二十八年度に本校に赴任され、四年間在職されました。

「元氣のない面川先生は、あのこないアンパンマンみたいだ」と大変失礼なことを申し上げてしまいました。それだけ、いつも笑顔で子どもたちに接している姿が印象的でした。子どもたちはその笑顔にどれほど元気をもらったことでしょうか。道徳がご専門で、校長先生とコラボでロボッ

トを活用した授業は、とても斬新でした。また、音楽の学習を通して育まれる道徳性について公開授業研究会で実践をするなど、先進的な実践に多く取り組まれました。

生まれ故郷の福島に戻られて、小学校教員としての再出発。福島の子どもたちに大きな元気を与えること間違いなしです。今後のご活躍をお祈りいたします。

下をお迎えしました。その時に私は、二年三組の音楽授業を担当するという榮譽を頂きました。三組の子供達が得意とする創作活動で、学校のお誕生おめでとうの曲を作って発表しました。

最後の年は、一年二組の担任でした。しかし僅か一年で静岡大学への配置替えとなり、心を残してお別れとなりました。それでも、六十才になりましたと会いに来てくださった卒業生や、当時の保護者であったお母様との懐かしい再会もありました。そこは、やはり附属だと思えます。

さて、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の真つただ中で、この原稿を書いています。コロナによる様々な影響も出ております。私の音楽仲間も、イタリア・ドイツ・スリランカ等でのリサイタルを中止しました。現に、私も三月中旬に予定していたウィーン公演を断腸の思いで中止しました。一刻も早い収束が待たれます。

さて、最後になりましたが、コロナ感染により御逝去された卒業生の岡江久美子さんの御冥福を心から祈念しながら、筆を置くことと致します。

(静岡大学名誉教授)

恥をかきすて はじめる自分

元教諭 黒澤俊二

恥ずかしき世田谷時代

卒業生の皆様、恥ずかしな
がら黒澤俊二です。私は昭和
五十六年（一九八一）に、こ
の学校に赴任しました。四十
年前のことです。当時二十九
歳でした。

それまで東京都練馬区の公
立小学校の教員として青春時
代を愉しんでいました。「そん
なに算数教育を学びたいのな
ら」と練馬区教育委員会の偉
い？先生の推薦で附属世田谷
小学校にやってきました。

結局二十五年間この学び舎



で過ごしました。世小で学ん

だおかげで現在の自分が生き
ているという事実を鑑みます
と、当時子どもたちだった卒
業生の皆さんへの感謝は言い
尽くせないほどです。そして、
その子どもたちの保護者の皆
様に支えられたことへの恩義
は一生ものです。さらに当時
の教職員として私を叱咤激励
してくださった先輩諸氏の指
導は、今現在もそして今後も
私のエネルギー源なのです。

と、この二十五周年は感謝

と恩義と源を感じる世小時代

なのですが、最近それと
異なる感情がわいてくる
のです。それは「恥ずか
しさ」です。

まだまだ若いつもりな
のですが、一応高齢者と
なり、冷静に自分を見つ
めるようになったからで
しょうか。またこの度の
「COVID-19 緊急事態宣
言」下の在宅勤務で人生

を振り返える時間が豊富にで
きたせいでしょうか。二十五
年間の世小時代を一文字で自
己評価すると、「恥」なのです。
恥ずかしながら「恥」なのです。

かきすてたい恥

今年になり世小での生活を
思い出すと、直ぐに「恥」と
いうことが蠢きはじめ、耳
に残り心に響くのです。まる
でひとつの新型Virusなので
す。「恥」なる事を思い出させ
脳を汚染するVirusです。

なかでも、何といっても当
時私の担任だったかわい子
どもたちに対しての恥ずべき
多くのことを思い出します。
よくも二十五周年も迷惑をか
けたもんだ、と反省すべき具
体的なことが思い出されます。
具体的なことなのですが、恥
ずかしくて、ここでは記述で
きないくらいです。

きつと保護者の皆様は、仄か
に「恥」を感じとられ、仕方な
い担任だとご辛抱をいただいた
ことなのでしょう。穴があつた
ら入りたような、顔から火が
出るようなことがありました。

ああ恥ずかしい。何とかなら
ないでしょうか、このVirus。
かきすてたいのです。

笑って水に流すVirus

今回、光栄にもこの藤棚に
寄稿する機会をいただき、投
稿を決意した目的のひとつは、
間違いなく当時の子どもたち
と保護者の皆様への陳謝です。
四十年間という時の流れに鑑
み、お許しいただきたくとい
ろです。陳謝。深謝。感謝。

この紙面で陳腐ながらも陳
謝を表明し、「謝」を並べたか
らとて、それですむわけでは
ないとわかってはいますが、申
し訳ないながらも、何だかほっ
としてきます。Virusへの免
疫ができたような気分です。

できますれば、それぞれの
クラス会でも開き、直接陳謝
したいところなのです。Virus
のお祓いのため、大騒ぎして
大笑いしたいのです。そして
新たな自分を始めたのです。
そして大騒ぎのあとで、「そ
んなことないよ、ほら、我が
学級は全員が燕岳頂上登頂に
成功したじゃないか」「私は千

倉の遠泳で完全に泳げたよ」
「接戦を制して運動会で優勝
したよね」「しばらく不登校
だったあの子が、卒業式にき
たよね」「学級だけで遠足に
行き、造形遊びしたよね」「鉄
道を敷き、トロッコを走ら
せて愉しかったよね」「いけ
ない池をつくったよね」「学
級新聞よく続けたよね」「学
級の本を作ったね」などとい
う、私に対してのお慰めのお
言葉でも、当時の子どもたち
から、いや、もうかなりの人
生経験豊富なおじさま、おば
さまから頂戴できるのであ
れば、ありがたいのです。な
ぜならば、人生経験が豊かに
なった分、卒業生の皆さんの
お言葉は意義深く、Virusを
沈め、新たな生きる力が湧
くVaccineとなるのではない
でしょうか。

笑って「恥」は端に沈めて
水に流し、新たな自分へと
ゴール目指して歩いて行き
ましょう。恥を滅しはじめ
る自分づくりを。あつ？ま
た恥ずかしいことを書いて
しまいました。

スクールカウンセラーとして再び附小へ

一九七五年(昭和五〇年)卒 一組 吉田恵美子



私は、四年前の二〇一六年に、ご縁あつて附属世田谷小学校のスクールカウンセラーとして、週一回勤務することになりました。小学校の正門をくぐるのは、実に約四十年ぶりのことでした。

四年前の勤務初日、門から一歩足を踏み入れた途端、思わず足が止まりました。正面には、

藤棚の向こうに見える上校庭とその奥の体育館。右には藤が池と、その先には桜の木々に囲まれた広々とした下校庭。さらに奥にはどんぐり山が見えました。

校内に入り、職員室へ向かう階段を昇れば、足元には見覚えのある木製の階段。段の手前が緩やかに削れていて、あれから

幾人もの子どもや先生方が上り下りして使い込まれたことがうかがえました。「なんて変わらない景色」と思わず感嘆の言葉が口について出ました。

変わらないと感じたのは、敷地内の構図だけではなく、その場に流れる空気といえますが、全体を覆う雰囲気のようなものでした。

学校では、保護者や子どもの面接がない時は教室に入り、授業を見学させていただきます。先生方の授業は、工夫が凝らされていて大変面白く、刺激的です。

ある日、三年生の教室で先生が黒板に「3×9」と書いて、即座に「答えは言わなくていいから」と言われ、この掛け算の様々な考え方を考えるという授業が始まりました。授業では、いかにもこの学校らしい、自ら学びをデザインすることを目指しているようでした。

子どもたちの様々な活動も、

担当教員の助けを借りるとはいえ、今も基本的には子ども達で運営されています。

しかし、そういう学びが苦手な子どももいます。考え方を考えるというような抽象的な課題よりも、決まった答えを素早く導き出すような課題を得意とする子どもたちです。

受験などでは高い実力を発揮する力だと思うのですが、大人になった時に必要なのは、考える方法を様々な多く持つことではないでしょうか。それは

仕事だけでなく、私たちが自分の人生そのものを創造していく力にもつながるのではないかと思います。デジタル化の時代に生きる私たちにとって、合理的で生産的であることや効率優先はもちろん大事なのですが、柔らかな頭と感性を持つ小学生の時期にこそ、考える力を養う学びは貴重だと思います。

この学校の特徴のひとつに、宿題が少なく自学が多いということがあります。子どもたちが自ら学ぶことを見てつけて行動するという主体性

を身につけてほしいと願うかなのではないのでしょうか。

* * *

私はこれまで、臨床心理士として精神科のクリニックの心理療法や、小児科・保健所で子育て相談、教育相談所で心理発達検査などの仕事に就いてまいりました。

附小では、保護者の主に子育てに関する相談に応じています。教育熱心な方が多く、ご夫婦で相談にお見えになることも少なくありません。

相談内容としては、思春期前後の親子関係や、ゲームを初めとする電子機器の与え方などがあります。子どもに対して、幼少期の「指示する」から「支持する」接し方への移行も、親としての難しい課題になることもあります。

そして子どもたちは、お友達との関係や勉強、塾の大変さなどを訴えにくることがあります。

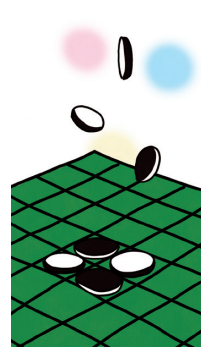
子どもの場合は話を聞くだけでなく、スクイッグルなどの描画療法を用いて、相談しやすい関係を作りながら情緒面の

成長を促していくことがあります。また、集団生活になじみやよくなるように、社会性を促す助けとして、ソーシャルスキルトレーニングを行うこともあります。

そして時には、オセロやウノやジェンガなど、子どもが好きな遊びを子ども主導で行います。これは遊戯療法と呼ばれる心理療法で、悩みについて語らずとも、遊びを通してエネルギーを補給して主体性を取り戻し、また自分の課題に向き合う力を得るという意義があります。

また、先生方からは、気になる児童がいるのを見てほしいと依頼されて、教室の様子を見に行き、見立てを先生に伝えて対策を講じることもあります。

このようにして今後も、私の大切な土台を育んでいた附小で、子ども達の学びを支える一助となるように努めてまいりたいと思います



2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日)青山附属同窓会 会計報告

2. 経常会計(単位:円)

収入	金額	支出	金額
前年度より繰り越し	12,585,906	2019藤棚印刷費	373,680
		名簿印刷費	0
収入	1,578,000	回線使用料	70,149
銀行利息	316	データ管理費	176,310
		事務手数料	194,200
		2019藤棚・名簿発送費	860,859
		通信費	19,958
		事務用品費	762
		慶弔費(弔事・卒業祝)	0
		交際費	0
		会議費	6,427
平成31年度収入合計	1,578,316	交通費	0
		振込手数料	21,192
		会費返金 4名分	20,000
		本年度支出計	1,743,537
		次年度へ繰越	12,420,685
合計	14,164,222	合計	14,164,222

1. 同窓会基金(単位:円)

収入	金額
前年度より繰り越し	3,304,353
銀行利息	276
証明書手数料	216
合計	3,304,413

3. 資産の部(単位:円)

明細	金額
同窓会基金分	
三菱UFJ信託銀行 合計	3,304,413
経常会計分	
三井住友銀行通知預金	1,500,000
三井住友銀行定期預金	3,023,833
三井住友銀行普通預金	2,019,197
ゆうちょ銀行総合口座	4,529,483
ゆうちょ銀行振替口座	1,204,333
現金	143,839
合計	12,420,685
基金+経常会計合計	15,725,098

会計監査承認 会計監事 一力健一郎 松本洋典

◆ 本年度の同窓会役員

会 長 庭山正一郎(昭和三十三年)
 幹事長 森 昭彦(〃三〇年)
 会計監事 一力健一郎(〃五〇年)
 松本洋典(平成 八年)
 常任幹事 小野聖穂(昭和二十九年)
 幣原 廣(〃三七年)
 岡市典子(〃五三年)
 小林哲子(〃五四年)
 斉藤研一(〃五四年)
 野口尚志(〃六三年)
 山本剛久(平成六年)
 瓶子可南子(〃八年)
 日野真毅(〃二五年)

クラス会開催の報告記事を募集しています！
 掲載を希望するクラスは、ハガキかメールで、
 同窓会までご一報ください。
 後日、折り返しご連絡いたします。

同窓会メールアドレス

aoyama-dosokai@edit.ne.jp

訃報

東(西)節子先生(二九五〇
 〇九〇年在職)が、二〇一九
 年七月に逝去されました(享
 年八十九歳)。
 眞仁田 昭先生(一九五二〇
 五五年在職)が、二〇一八年
 十二月に逝去されました(享
 年九十一歳)。
 荒井孝先生(一九六四〇
 八七年在職)が、二〇一八年
 八月に逝去されました(享年
 八十三歳)。
 小塚(広田)道子先生
 (一九四三〇四九年在職)が、
 二〇一八年八月に逝去されま
 した(享年九十七歳)。
 小塚芳夫先生(一九四五〇
 四九年在職)が、二〇一八年
 七月に逝去されました(享年
 九十六歳)。
 ここに謹んでご冥福をお祈
 り申し上げます。

編集後記

◆ 予想だにしない社会状況の中
 で、この「編集後記」を書
 いています。私も、皆さんも、
 とにかく健康でいられること
 を祈るばかりです。

◆ 正門前の「タムラヤ文具店」
 が、二〇一九年十二月二十七日
 をもって、百四十三年の歴史に
 幕を下ろしました。本当に長い
 間、ありがとうございました。
 ◆ 短い期間でしたが、常任幹事
 として広瀬(田制)めぐみさん
 (平成七年卒一組)に、同窓会



の仕事をお手伝いしていただき
 ました。ありがとうございました。
 ◆ 「ちくらつなぐホテル」で、
 クラス会をしてみませんか！
 集合写真の投稿だけでも大歓
 迎です。